

# 白峰地区

(石川県白山市)

- 計画期間 平成19年～21年
- 面積 20.4ha
- 交付対象事業費 1,006.5百万円
- 市人口 113,234人 (地区内人口 834人)

**ポイント** 白峰地区全体を「むらの駅」と位置付け、独自資源活用と住民参画を基調とした山村集落におけるにぎわい再生モデル

**地区概要** 道路・公園整備などの基幹事業と、温泉整備やにぎわい創出などの提案事業を効果的に実施することにより、来訪客の増加を図り、現代版湯治場、伝統的建造物群保存地区に向けての地域づくりの動きを実現する。

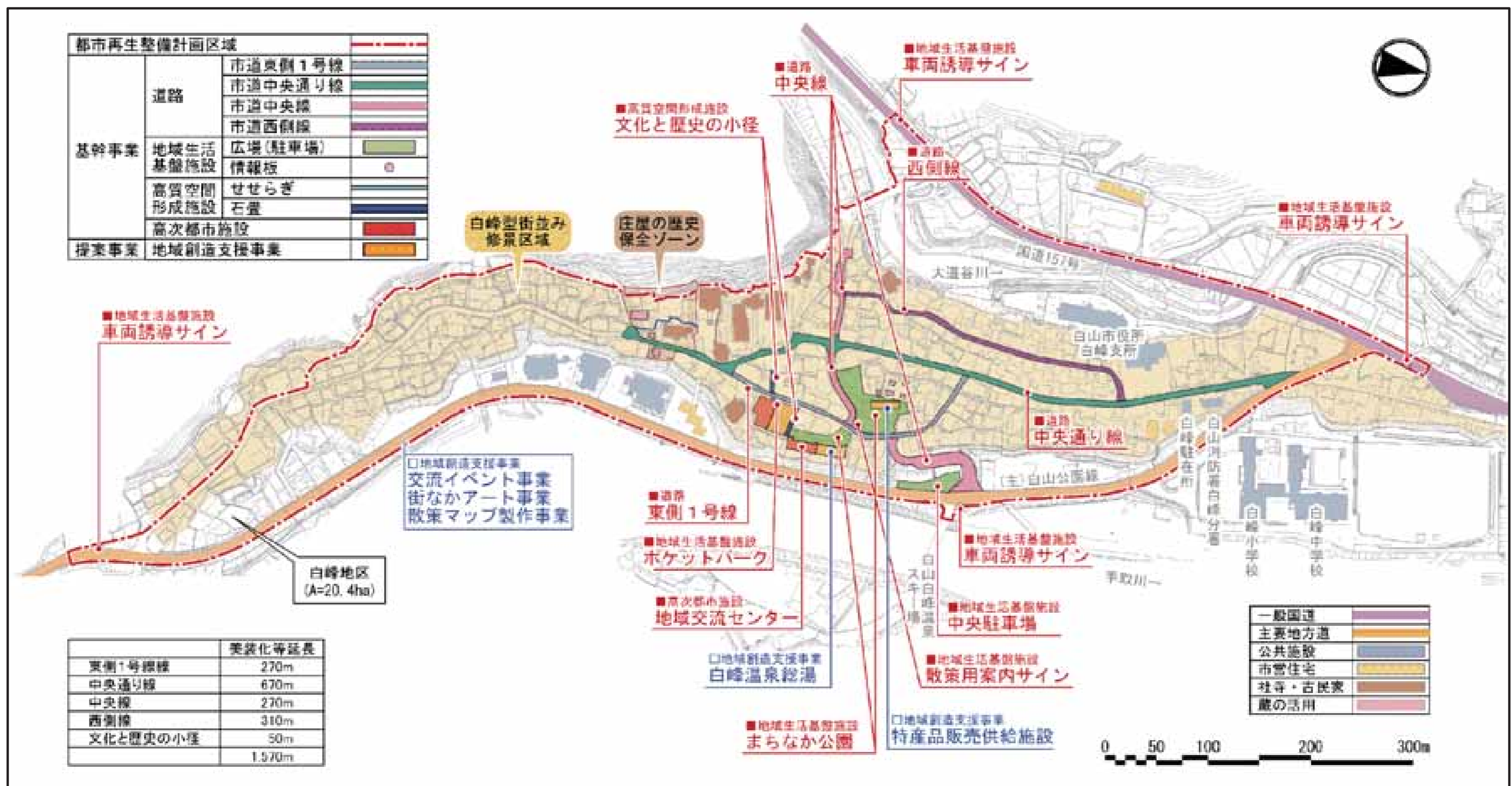
**目標** 「温泉と伝統的街並みを活かした白峰らしさの演出」をテーマに、生活環境の向上に伴う交流環境の拡充

**指標** 地区の特有資源である温泉、伝統的街並み及びコミュニティ活動を三つの柱とし、それぞれの取り組みを進めながら、相乗効果を狙った目標（来訪者数）の実現を目指している。

観光施設入込者数	257,000人 (H17)	→	308,000人 (H21)
宿泊者数	37,000人 (H17)	→	40,000人 (H21)
イベント参加者数	8,000人 (H17)	→	12,000人 (H21)

**事業内容** 基幹事業 (500.9百万円) → 道路 (4路線、延長 1,520m)、公園 (1カ所 2,890㎡)、ポケットパーク (1カ所、25㎡)、サイン (5基)、駐車場 (2カ所 1,325㎡)、文化と歴史の小径 (2路線、延長 50m)、地域交流センター (1カ所、498㎡)

提案事業 (505.6百万円) → 温泉総湯 (1カ所、598㎡)、特産品販売供給施設 (1カ所、230㎡)、散策マップ (白峰地区そぞろ歩き)、交流イベント (雪だるままつり、伝統的街並みライトアップ、街なかイベント)、街なかアート (そぞろ歩きマップ、屋号表札)



## 現況と課題

白山市の南部に位置する白峰地区は国内有数の豪雪地帯であるが、昭和49年の手取川ダム建設以来、過疎化が進展している。ダム再建策として、スキー場や温泉施設に加え、近年は白山恐竜パーク白峰などを整備し、特色あるイベントも実施してきたが、来訪客数の減少傾向が続いている。そのため、知名度が高い白峰温泉や伝統的街並みを活用した集落景観の醸成及び地域住民参画型ソフト事業の推進などによって、来訪者数の増加と観光産業の振興を図る。

## 提案事業の特徴

### 白峰温泉総湯の整備

温泉は地域のシンボルであり、景観に配慮した施設を整備することによって、現代版湯治場としてのイメージアップを図る。

### 特産品販売供給施設の整備

白峰地区の特産品である栃餅、ぼた餅、堅豆腐、そば、おろしうどんなどを提供し、来訪者のにぎわい拠点とする。

## 計画策定プロセス

### 白峰地区中心市街地再整備計画検討委員会

白峰地区の住民、各種団体からなる検討委員会を設置し、整備計画の検討を慎重に行うとともに、地域住民対象の先進地視察、学習会、報告説明会を主体的に実施してきた。

### 白峰地区中心市街地再整備計画庁内プロジェクトチーム

市役所内にプロジェクトチームを設置し、検討委員会での内容を具体化するとともに、地域主体のまちづくりに対して密接な連携と効果的な支援を行ってきた。

### 大学との連携

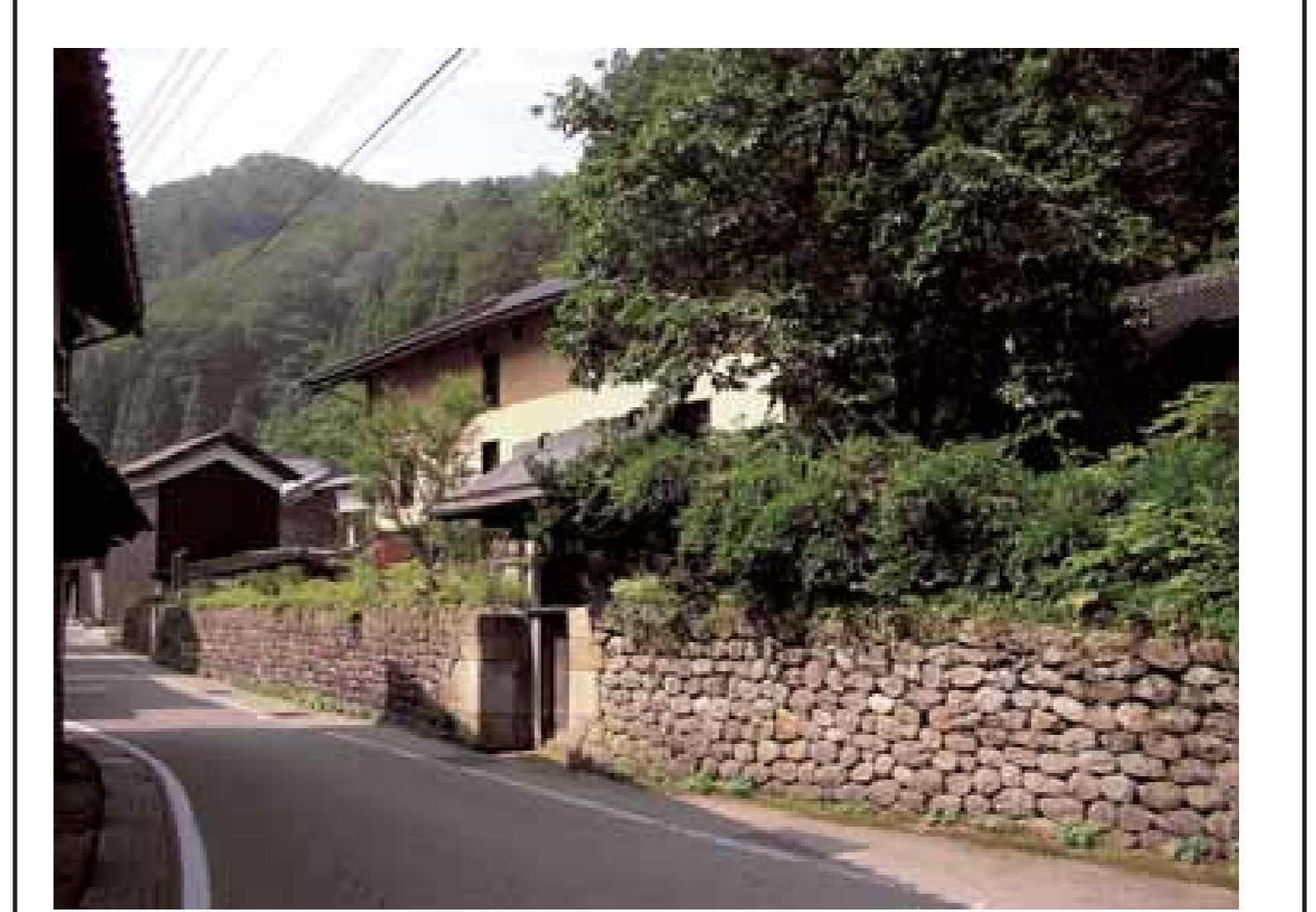
金沢工業大学と連携し、官民学一体となって、普及啓発活動、調査研究活動、イベント実践活動などを行ってきた。

### まちづくり団体との連携

雪だるままつりや古民家再生の雪だるまカフェを運営する雪だるま倶楽部及び地元観光協会と連携を行ってきた。

## 角市長のコメント

白峰地区はまちづくりの典型である「雪だるままつり」を成功させた昔ながらのコミュニティの充実した地域であり、今回の事業は全国にも誇れるモデル的な活力ある山村集落を目指している。目標を実現することによって、課題である観光産業の振興が図られ、小規模地区であるが故に地域再生の効果は計り知れない。また、現在、関係機関が連携して取り組んでいる世界遺産登録「霊峰白山と山麓の文化的景観」の中核的な構成資産である白峰地区伝統的建造物群保存地区指定に向けた運動が加速するものと期待している。



▲ 白峰地区の代表的街並み・山岸家付近  
(山岸家：江戸時代白山麓18か村取次元)



▲ 温泉総湯・地域交流センター完成予想図



▲ 白峰地区のシンボル・雪だるままつり



▲ 古民家再生のモデル・雪だるまカフェ